

E26近畿自動車道の概要



摂津北付近



新幹線交差部付近



昭和62年3月 八尾まで延伸

昭和63年3月 全線開通



○区間：E26近畿自動車道（吹田JCT～松原IC）

○延長：28.4 km

○主な事業経緯

- ・昭和45年 3月 大阪万博主要アクセスルートとして、吹田JCT～門真IC間暫定2車線開通
- ・昭和45年 3月～9月 大阪万博開催
【3/15～9/13の183日間で6,400万人強の来場】
- ・昭和47年12月 吹田JCT～門真IC間完成4車線化完了
- ・昭和51年 3月 東大阪北ICまで延伸
- ・昭和58年12月 東大阪JCTまで延伸
- ・昭和62年 3月 八尾ICまで延伸
- 昭和63年 3月 全線開通**
- 平成30年 3月 全線開通30周年**



E26 近畿自動車道 ～今昔物語～

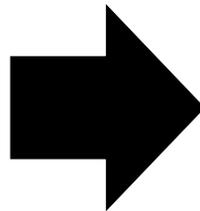


大阪万博開催とともに開通したE26近畿自動車道

○昭和45年に大阪万博とともに開通したE26近畿自動車道は、18年かけ昭和63年に全線開通し、平成30年に30周年を迎えました。



昭和45年



現在

吹田JCT・IC付近の変遷

○E26近畿自動車道は「関西中央環状道路」のネットワークの一部として重要な役割を担っています。





E26 近畿自動車道 ～今昔物語～

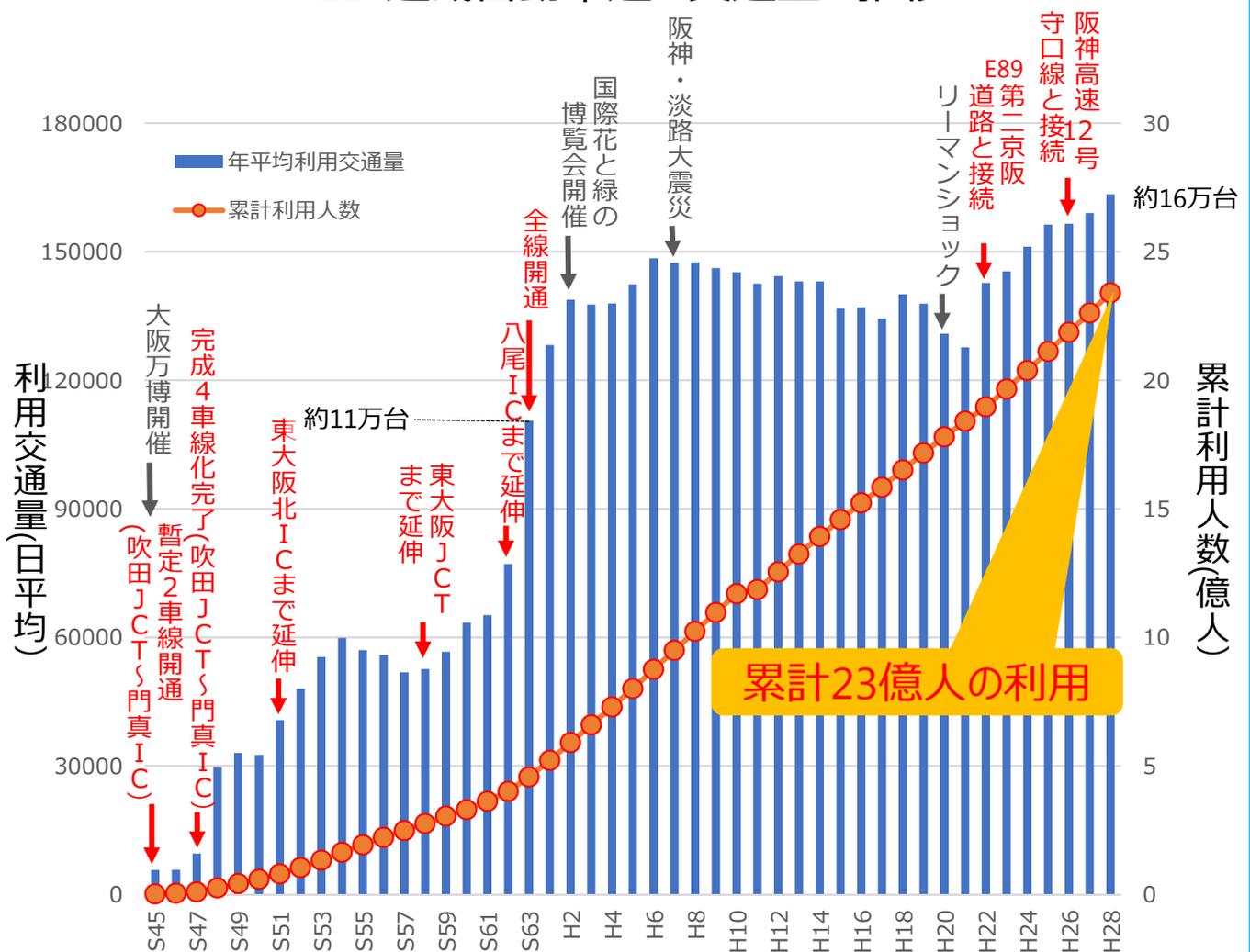


E26近畿自動車道の利用経緯

E26近畿自動車道 全通30周年を迎え…

1日の利用台数は**約16万台**（平成28年）
最初の開通から**累計で約23億人**が利用！
この30年間で利用交通は**約1.5倍**に増加！

E26近畿自動車道の交通量の推移





E26 近畿自動車道 ～今昔物語～



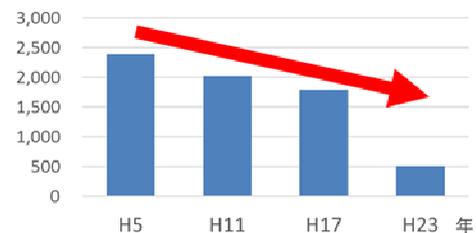
E26近畿自動車道の歴史は「渋滞対策の歴史」

○平成5年には **2500回/年** 発生していた渋滞が

↓ **1/5に減少!**

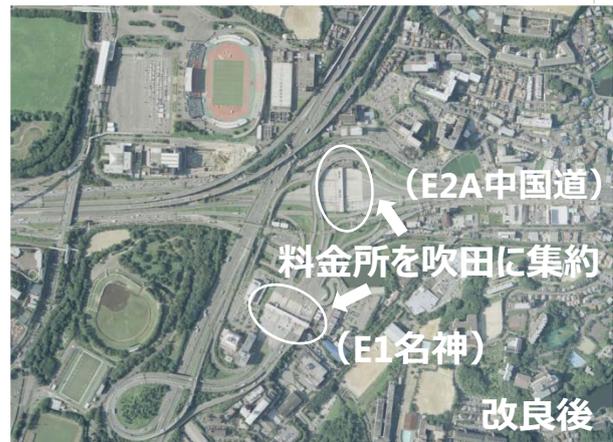
平成23年に **500回/年**に減少

渋滞回数 E26近畿道の渋滞発生回数の推移



平成6年 吹田IC改築

下り線にあった茨木本線料金所を吹田に移設し、料金支払いのための停車回数を減らしました。



出典：国土地理院ウェブサイト (<http://mapps.gsi.go.jp>) より抜粋し、NEXCO西日本で加工して作成

平成8年 摂津北IC～摂津南IC（上り線）付加車線事業

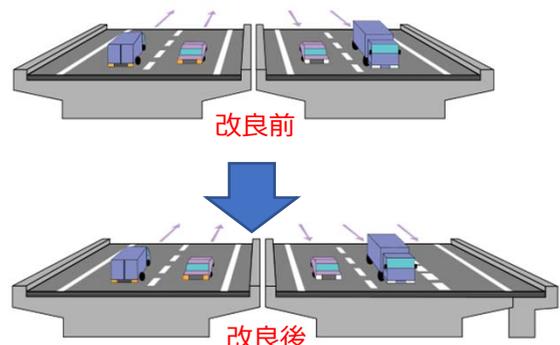


出典：国土地理院ウェブサイト (<http://mapps.gsi.go.jp>) より抜粋し、NEXCO西日本で加工して作成

平成11年 八尾料金所ブース増設

平成13年 ETC導入（料金所の混雑緩和）

平成22年 E89第二京阪道路接続により交通量分散





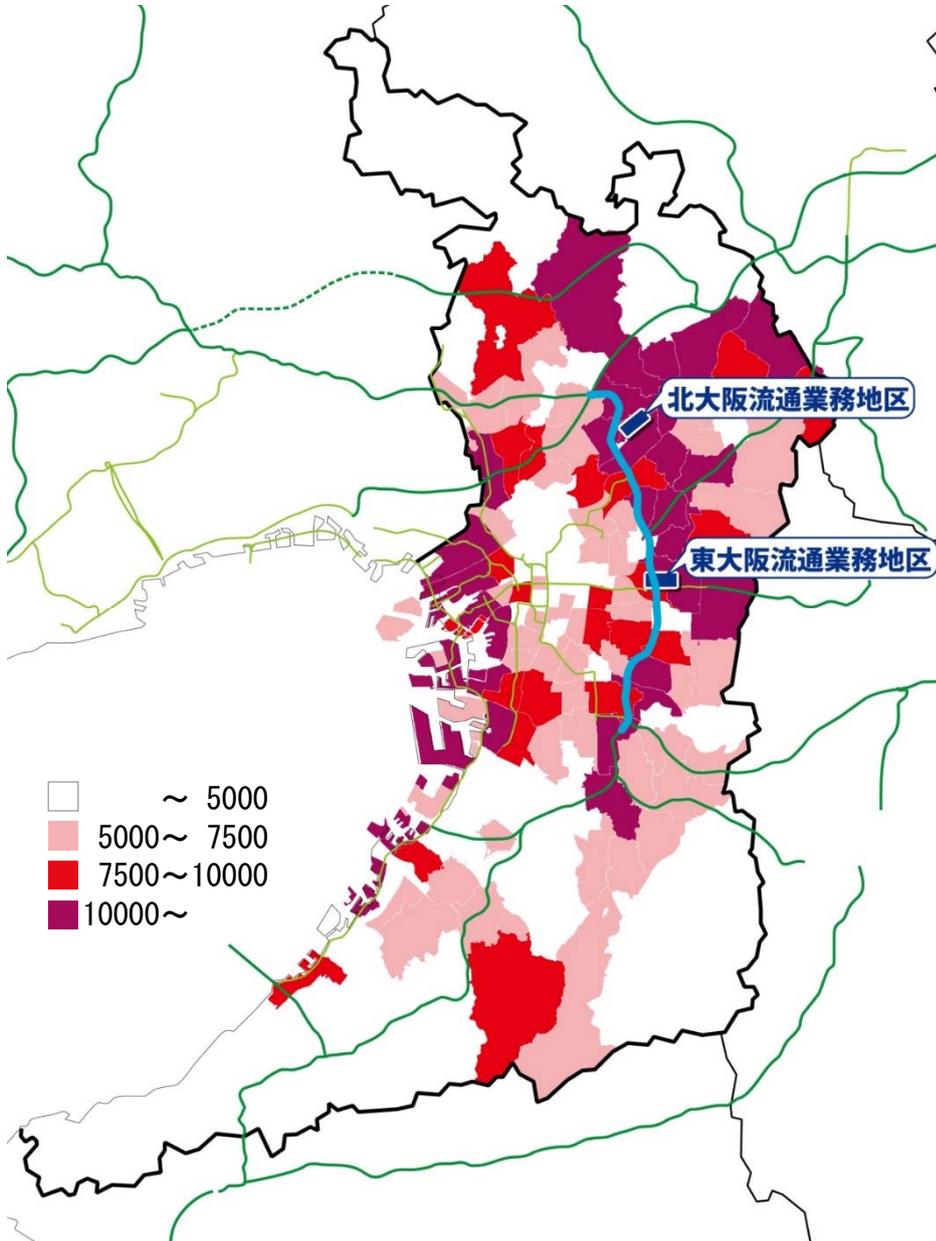
E26 近畿自動車道 ～今昔物語～



E26近畿道と接続する放射道路沿線の物流利用状況

大阪府内を発着する貨物車は、E26近畿道沿線の内陸部と臨海部に大別。E26近畿道と接続する放射道路沿線は、流通業務地区を中心に物流施設が多数立地。E26近畿道及び接続する路線の沿線で大阪府内の発着数の**シェアは約 6 割**を占める。

大阪府の普通貨物車の発着交通量の分布とE26近畿道沿線のシェア



□ ~ 5000
 □ 5000~7500
 □ 7500~10000
 □ 10000~

北大阪流通業務地区
約96.8ha(流通団地 約73.2ha)

流通業務施設	約58.4ha
トロッターミナル等	約22.1ha
中央卸売市場	約20.0ha
事務所・店舗	約10.6ha
倉庫	約 5.2ha
鉄道貨物線	約 0.5ha
公共・公益的施設	約14.8ha

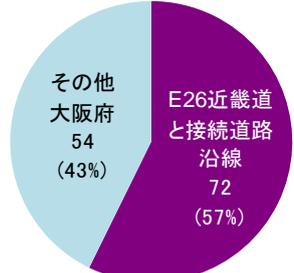


東大阪流通業務地区
約103.0ha(流通団地 約46.3ha)

流通業務施設	約34.0ha
トロッターミナル等	約16.6ha
卸売業	約13.8ha
倉庫	約 3.0ha
コンテナデポ	約 0.6ha
公共・公益的施設	約12.3ha



普通貨物の発生集中交通量



単位：万トリップエンド/日

出典：平成22年道路交通センサスBゾーン単位の発生集中量を図化、単位はトリップエンド/日
：流通業務地区に関するデータ・写真は大阪府HPより引用



E26 近畿自動車道 ～今昔物語～

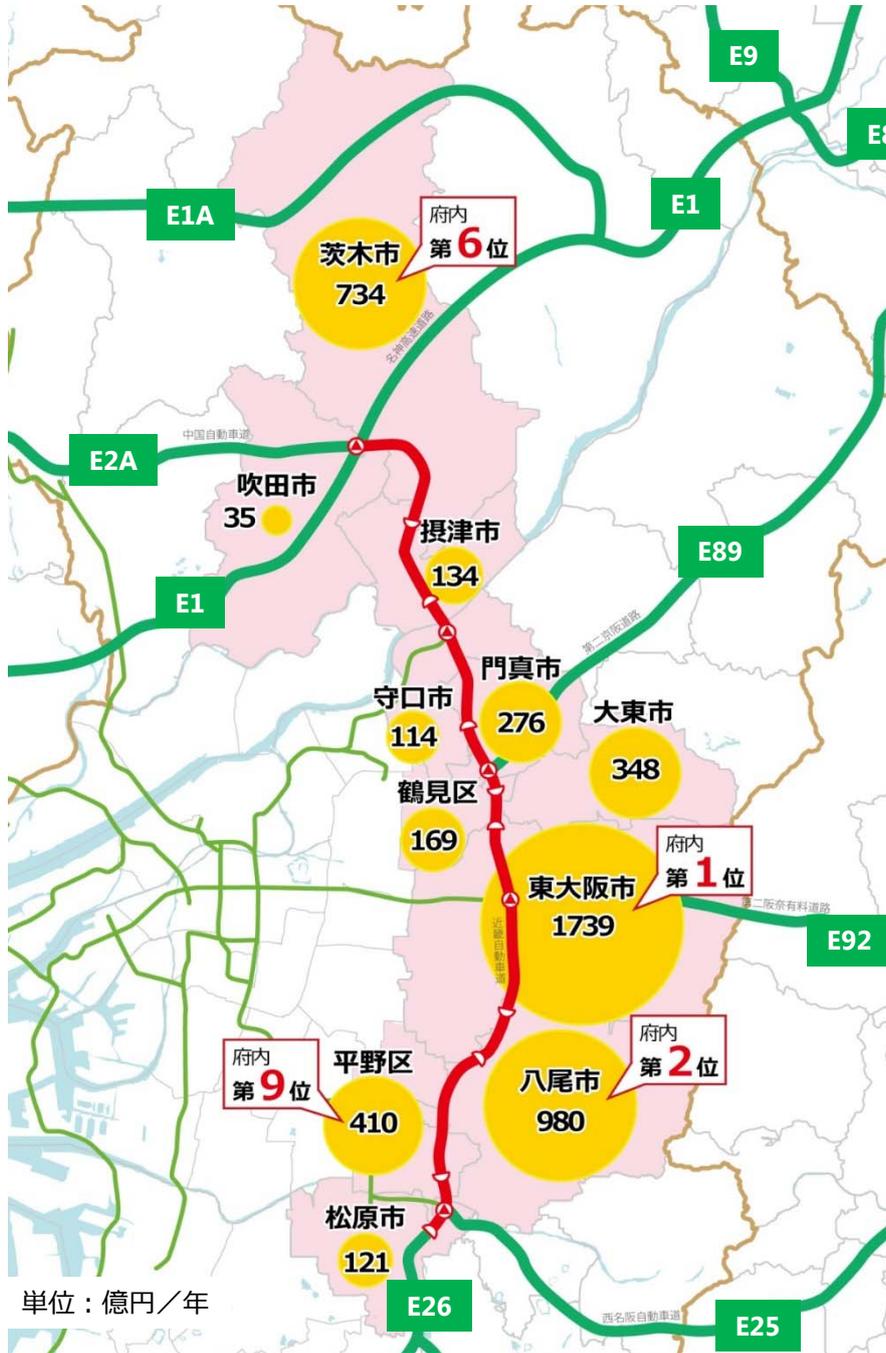


地域の産業振興の役割

金属製品出荷額全国第一位の大阪府において、
E26近畿道沿線市の**シェアは36%**を占める。

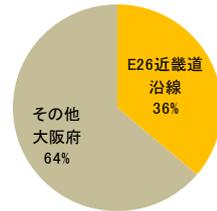
■ E26近畿道沿線市の**金属製品の出荷額**の分布

金属製品出荷額の**全国順位**



順位	都道府県	製造品出荷額 (億円)
1位	大阪	14,555
2位	愛知	14,374
3位	茨城	8,074
4位	兵庫	8,034
5位	埼玉	7,179

金属製品出荷額に占める**シェア**



単位：億円／年

出典：平成28年経済センサス-活動調査結果